

IKAW・AKOでの活動記録 2009.5.26~2009.11.2

木村 暁代

① 参加の経緯と背景

私は2009年5月27日から11月2日までの約5ヶ月間、環境NGO イカオ・アコの現地駐在インターン第一期生として、フィリピン西ネグロス州シライ市の現地事務所に駐在した。

2009年3月にインターネット上で見つけたインターン生の募集に応募し、書類選考後、4月にイカオ・アコ代表の後藤先生に面接して頂き、内定を頂いた。

(ちなみに退職しての参加だったのだが、ハローワークでは失業保険の受給期間延長は認められなかった。青年海外協力隊に準じる活動内容で技術指導者としての派遣、という証明があれば延長してもらえるそうだ。蛇足だが、今後の参考のために記す。)

現地では、イカオ・アコが助成を受けているJICA草の根プロジェクトマネージャーも兼任されている現地駐在員の倉田麻里さんが指導にあたってくれた。同じくインターンとして1ヵ月早く到着した田中亜希さんと三人で住居を兼ねた事務所で共同生活を送りながらの活動となった。シライ市役所職員でイカオ・アコのチェアマンでもあるレオ・カンソンさんと奥さんのリュウビさんはじめ、観光課課長のベルさんなど、たくさんの人たちが、私たちのことを気遣ってくれた。冒頭ではあるが、ここでお礼を申しあげたい。

② 主な活動内容の報告

- 1、シライ市バラリン村でのマングローブ植樹
- 2、海岸清掃活動

これらの活動は、イカオ・アコのスタディ・ツアーの他、地元の学校や団体からの要請に応じ企画された。その際、苗木の準備、参加者のサポートなど、BAMPAメンバーが多大な力を発揮してくれた。また、海岸清掃活動やマングローブのメンテナンスは、BAMPAが定期的に行なってくれている。マングローブ林中の橋の修復・管理も、BAMPAが請け負っている。初めのうちは、ボランティア活動と報酬の問題など、BAMPAとイカオ・アコの関係性が理解しにくい部分があったのだが、雇用を生み出し、人々の暮らしを支えているという点や、経済的に余裕がない人々でも無理なく地域貢献活動に参加出来るという点でも評価できる、お互い長年の試行錯誤の上で出来上がってきたかたちなのだということが活動を通じて分かってきた。BAMPAの皆さんには、本当に(公私ともに)お世話になった。BAMPAにバラリン村の若い世代のメンバーを引き込んで活動に参加してもらい、この事業を持続することが、今後の課題になるかと思う。



● BAMPА のみなさんと。 ●パラリンの海岸での清掃活動

3、スタディ・ツアーの受け入れ（49回、50回、51回、JICA 教員研修、個人ツアー）
 たくさんのお会いがあり、とても楽しい経験になった。

倉田さんのサポートとして、お菓子や飲み物、レストランやホテルの手配等をしたり、アクティビティの準備などが仕事だったが、参加者の皆さんに負けないくらい、ネグロスを楽しませてもらった。 教員ツアーでは、先生方のプレゼンテーションがとても勉強になったし、49回ツアーでのパタッグのお年寄りの戦争体験のお話、50回ツアーでの南ネグロスの自然の美しさ、交流の時間がゆったりとれた51回ツアーや個人ツアー、それぞれが印象に残っている。 今後は、ホームステイや職業体験など、よりリアルな地元の人たちの生活に近づくことが出来るような企画を増やしていくことを提案したい。



●第49回ツアー、第50回ツアー、JICA 教員研修、第51回ツアーの参加者のみなさんと。

4、環境教育アクティビティ

イカオ・アコの活動でもっとも興味を持って取り組んだことが環境教育である。

将来につながる意義のある企画だと思うので、今後もぜひ継続して欲しい。私自身、今

後もネグロスの子どもたちと関わっていきたいと思っている。ここではシライ市バラリン村ダージェッス・ハイスクールでの活動について報告する。（※詳細は別紙を参照）

●7月31日 4年生

海岸漂着ごみ問題・ごみ分別についてのレクチャーと海岸清掃活動（2時間）

- ①イカオ・アコの活動紹介
- ②海岸のごみ問題について
- ③ごみ分別について
- ④3Rについて説明
- ⑤クイズ
- ⑥家庭ごみを分別するゲーム。
- ⑦マングローブ林のごみ拾いへ



- プラスチックの袋は、土に還るまで何年かかるでしょう？ ●ハイ！

● 8月10日 マングローブについての○×クイズ・・・3年生(30分)

※ 第49回ツアーのアクティビティとして。



- ファイナリストの子どもたちには、日本からのボランティアが持参した文房具などをプレゼント。

● 9月22日

ごみ分別についてレクチャーと教室用のごみ箱作り(2時間)・・・2年生

※第51回ツアーのアクティビティとして



- 出来上がったごみ箱の前で記念撮影。

- 10月22日

ごみ分別についてのレクチャーと校内クリーンアップ(1時間半)・・・1年生



- 集めたごみの前でパチリ！ ●校庭を一周。ずいぶんきれいになりました！

5、日本語教育

- UNO-R (6月22日～10月9日)

UNO-R という私立大学のホスピタリティマネジメントのクラスの TA として活動した。

(週3回、月、水、金曜日の午前8時30分から9時30分まで。)

また、第51回ツアー(9月21日～28日)では、UNO-R 構内で文化交流プログラム(9月25日)が行われた。日本側はパワーポイントでのプレゼンテーション、「カントリー・ロード」の合唱、大学側は民族舞踊など迫力あるプログラムを披露してくれ、非常に盛り上がった。また、日本料理・フィリピン料理の調理・会食会を企画、日本側は巻き寿司と豚汁、大学側は、バレンシアナ、アドボなど、数々のご馳走を生徒たちが持ち寄って用意してくれた。翌日にはバラリン村でのマングローブの植林にも参加。両校の学生が積極的に交流してくれたことで、お互い友情の育まれた素晴らしい機会になったと思う。UNO-R との交流は今回が初めてだったが、イカオ・アコにとっても良いつながりが保たれるといいと思う。



● UNO-Rの生徒たちと交流会の準備 ●51回ツアーの交流会の様子。フィリピンの伝統ダンスを体験！

●Jack and Jill (9月4日~10月16日)

ジャック&ジル高校のハムラ校長から、リコーダーと鍵盤ハーモニカの贈呈式で同校を訪れたことをきっかけに要請があり、3,4年生の生徒たちに週に2回日本語を教える機会に恵まれた。自分で授業を組み立てるといふ、初めての体験だったので、教材などの準備に苦労した。9月・10月は、UNO-Rとあわせ週に5コマのクラスを持っていたので、日本語一色という感じだった。ジャック&ジルでは授業だけでなく、空手やリコーダーのクラスに子どもたちと一緒に参加したり、一緒に昼食を取ったりする機会があったので、大学生とはまた違うフィリピンの10代の子どもの生活や考え方を垣間見ることが出来た。最終日にはお別れセレモニーのサプライズもあり、忘れがたい楽しい思い出となった。



●Jack&Jillの日本語クラスの生徒たちと ●昼休みのリコーダーの練習の後、小学生と

● TUP(フィリピン工業大学)

イカオ・アコとは長いつながりのあるTUPには、すでに田中亜希さんが派遣されていたため日本語の授業自体にTAとして参加することはなかったのだが、手巻き寿司パーティ、習字体験などのアシスト、日本食レストラン「海星」でのお食事会、亜希さんお別れパーティなどのイベントに参加させてもらった。TUPの学生と交流できていい体験になり、UNO-Rなどでの文化交流アクティビティ企画の参考にもなった。田中さん、日本語教師のアモール先生に感謝したい。



●TUPでの習字アクティビティに参加(49回ツアー)

6、写真展など広報活動

2008年度に引き続き参加した西ネグロス州環境週間の期間、バコロド市内のショッピングモール SM シューマートで開催された写真展に出品した。

イカオ・アコのプロジェクトについての説明や地図のほか、主たるプロジェクトサイト(バラリン、イログ、シパライ、ヒノバアン)での活動の様子がわかる写真を、地域ごとに紹介した。また、これらの写真を活用し、以下の場所でも写真展を開催した。

- ・西ネグロス州環境週間 SM シューマート (6月22日～26日)
- ・U-NO-R (9月21日～9月26日)
- ・マニラ NGO バザー(7月2日)
- ・シライ市役所 (7月13日～)
- ・バラリン村バランガイホール (8月23日※) パガパットフェスティバル

また、イカオ・アコの横断幕を作成し、シライ市のフェスティバルのパレードに参加した。



●田中さん、マサイと。バラリン村の一員として参加した。●SM シューマートでの写真展の様子。

7、チラシ・パンフレット作成補助

以下のチラシ、パンフレットのレイアウト、原稿作成のお手伝いをした。

- ・naminami リサイクルグッズ チラシ
- ・Ikaw・ako 企業向けパンフレット

8、参考：NGO・民間・政府機関との交流(49回、50回、51回ツアーを除く)

・「タリヤレス・デ・ナザレト」 シライ市の STA という学校に隣接するスペインのカトリック系修道会による女性自立支援団体。イカオ・アコのジュースパックのリサイクル商品の主たる発注先。

・「JOCV」 イロイロ市の青年海外協力隊員の方々にお話を伺う機会があった。

・「LOOB」 イロイロ市の NGO。貧困層に向けての英語教育アクティビティに参加させていただいた。子どもたちを引きつける完成度の高いアクティビティであり、スタッフ、日本人ボランティア、フィリピン人ボランティアの連携とバランスの良さが印象的だった。

6月

・「PEMO」,「西ネグロス州環境省」の方々に、西ネグロス州環境週間の企画に招待され、マングローブの植樹、街路樹の植樹に参加。

・「NESCA」国立ネグロス農業大学の学生とマングローブの植樹をした。

7月

・「APLA」大橋成子さんがバラリン村に来てくださった。旧・日本ネグロスキャンペーン事務局で現地調整員をされていた。51回ツアーでは、ナヨン村への訪問、ネグロス島の歴史と経済についてのレクチャーもしてくださった。

・「ソルト・パヤタス」マニラ市の NGO。パヤタスごみ投棄場近くの女性就業自立支援施設を見学させていただいた。「ソルト・パヤタス」主催の NGO のバザーを通じ、「ICAN」「国境なき子どもたち」、「コーディリエラ・グリーン・ネットワーク」、マニラのフリーペーパー「Primer」などと交流した。

・映画「BASURA」の四ノ宮浩監督、に東京都写真美術館でご挨拶した。「ハロハロ・プロダクツ」土居悠さんにご挨拶した。土居さんは9月にネグロスの事務所にも来てくださった。

・バコロド市の「ロータリークラブ」でのレクチャーで倉田さんが講演、9月にはマングローブ植林も行なった。

9月

「OISKA」バゴ市の NGO。日本の農業技術支援団体。マングローブ植林、倉田さんによるレクチャーなどを通じて交流が深まった。



③ 総括

フィリピン。わたしの故郷である九州から飛行機でわずか 3 時間という、地理的にも近く、歴史的にも日本と深い関わりを持つ国にもかかわらず、この国について具体的なイメージを持つ日本人はそう多くはないだろう。私もその一人だった。

赴任して当初は、スペインやアメリカの影響の色濃く残るネグロス島で、これがフィリピン! というような確固たる個性、アイデンティティがなかなか見つけられず、寂しさを感じたこともある。その日、その日を楽しく生きることが何より大切、というようなラテン気質も、物事を深く見つめる視点が欠けているような気がして物足りなさを感じたりもした。

しかし今は、よそ者である自分を、明るく受け入れてくれる、フィリピンの人々の寛容性にどれほど助けられ癒されたことか、とつくづく思う。それこそがフィリピン、ネグロス島の個性だ。心から大好きだし、感謝している。

また、厳しい自然や戦争災害という原因ではないのに、貧富の格差のために生まれる不平等、フィリピンの「作られた貧困」の現実。ストリート・チルドレンに会うたびに胸が痛んだ。自分が献身的に働けば、解決する、というような単純なものではなかった。植民地時代から脈々と続く教会や政治家からの「チャリティ」も、貧しい人々が搾取され続ける現実や問題点から目をそらさせるために生まれたものではないか、わたしたち NGO からの「援助」も、結果は同じようなものになってしまっていないか、と疑問を感じたこともある。

しかし、目の前に居る現場の人たちは輝いていた。バラリン村の BAMPА メンバーは、マングローブの苗木を育てることで自分たちの村を守ること、生計の向上に繋がっていることに誇りと喜びを感じていた。タリヤレスの従業員たちも、難しくて手間のかかるジュースパック商品に様々な創意工夫を加え、生き生きと働いていた。彼女たちをマネジメントしているシスターたちも魅力的で素晴らしい方たちだった。

生きるということは理屈ではない。どんな不平等な構造にあっても、人は笑い、泣き、日々を慈しんでそれぞれの場所で生きている。

頭でっかちでなかなか行動に踏み出せない自分に気がついた。そして、ほんの一步を踏み出すだけで、一緒に動いてくれる人たちの存在のありがたさを知った。それはイカオ・アコの事業が、みんなで作り上げる仕事であるからだ。そしてイカオ・アコの事業は、現地の人々と自然の再生のためにあるのだ、自分はそのお手伝いにすぎないのだ、という当たり前のことが頭ではなく体の感覚でわかってくると、ほっと肩の力が抜けてきた。息も出来ないような熱帯の空気に、さわやかな風を感じるようになった頃の変化かもしれない。

環境、歴史、経済、言語、何につけても知識の乏しく、専門性が浅い自分に、引け目を感じることも多かった。しかし今後は専門分野にこだわりすぎず、広く浅く全体を見通せる能力も高めていこうと思う。素人目線からの疑問を大切にして、そのたびに学習の機会を逃さない勤勉さを持ち続けたい。分野は違っても、全部人間の暮らしに関わることであ

り、この地球上の問題であり、つまり世界中のみんなが幸せに暮らすためだという意味で共通することと思うからだ。

環境破壊によって被害をこうむるのは、途上国の貧しい人々、「辺境」に暮らす人々、差別された人々の、人として幸せに暮らす権利だということ。だからこそ、日本で暮らすわたしたちが変わらなければならないということ。この5ヶ月間で見えてきたことだ。私はこの不平等をなくすために、自分に出来ることを、たとえ小さくても、一生続けていこうと思う。「環境」という、自分にとって新たな分野に飛び込み活動できたことは、自分にとってとても大きな財産になった。これからも学びを深め、視野を広げながら、今後の活動に生かしていきたい。

最後に、関係者の皆さんに感謝を申しあげたい。

代表の後藤先生、副代表の鈴木さん、これまでイカオ・アコでの活動実績もなく、専門性も低い私をインターン生に選んでくださって感謝します。現地のツアー中も、日本からも、たくさんの応援とねぎらいをありがとうございました。おかげで楽しく活動できました。

現地駐在員の倉田さん、個性を尊重してくれる、アシスタントの失敗をフォローしてくれる、いくら食べても笑顔で見守ってくれる、自分に厳しく他人に優しい、ダンスの上手な、素晴らしい上司でした。本当にありがとう。

インターン同期生の田中さん、一緒に暮らせて楽しい4ヶ月間でした。真剣な仕事ぶりには大きな刺激になりました。ありがとう。また夜通しおしゃべりしましょう。

ホストファミリーのレオ、リュウビさん、お二人のいないイカオ・アコは考えられません。いつも美味しいご飯と素敵な笑顔をありがとう。

ネグロスに行ってよかったと思います。

わたしが行ったことで世界は変わりませんでした（笑）、私にとっての世界は大きく変わりました。それは、楽しく明るく豊かな変化でした。この幸運に感謝します。みなさん、またネグロスでお会いしましょう！本当にありがとうございました。



●シライでイチオシのスポット、イスタカ。下町です（笑） ●カリリンの子どもたちと（※50回ツアー）。